

『エコ・フィロソフィ研究』第5号の発刊に寄せて

TIEPh 代表 山田利明

TIEPh 設立の原資となった文部科学省科学技術調整費は、昨年3月に終了した。この一年間は学内予算によってこの組織は運用されてきた。それでも、一般社団法人サステイナブル・サイエンス・コンソーシアム（SSC）への加盟、同法人への理事等役員の派出、東京農工大学とのセミナーなどを開催することができた。また、他学会と共催の研究集会も行われていて、ほぼ通年の活動を行うことができた。ただ、年度末に計画した大きなシンポジウムは、周囲からの期待も大きく、多数の参加者が見込まれたにもかかわらず、3月11日に突然東日本を襲った巨大地震と津波によって、中止のやむなきに至った。この地震による被害が明らかになるに従って、エコロジーのあり方、サステイナビリティの意義を強く感じるようになったのは、私一人だけではあるまい。

ここに、この一年の研究成果の一部を公表して、「エコ・フィロソフィ」の一端を明らかにする。江湖諸賢の御教示を乞う次第である。